本　賞

千島歯舞諸島居住者連盟富山支部長

吉　田　義　久 氏

令和２年９月29日、富山県北方領土史料室の完成式が黒部市生地の市コミュニティーセンターで行われました。この日、北海道以外の自治体では初となる北方領土に関する啓発施設の誕生を祝い、返還運動の取り組みへ思いを新たにしました。

北方領土から引き上げてきた富山県出身者の数は1,425名にのぼります。これは北海道についで２番目に多い数です。渡島した県内出身者の６割にあたる835名が黒部市出身であり、根室・歯舞群島のコンブ漁は私達の先人によって開拓され、発展したといっても過言ではありません。

そうしたなか、歯舞群島の水晶島に８歳まで住んでおられた千島歯舞諸島居住者連盟富山支部長の吉田義久さんは「北方領土返還要求運動富山県民会議（昭和57年設立）」の設立に寄与されたほか、元島民らと「語り部」として約20年前から県内の学校や施設で北方領土での当時の思い出や苦労した話、旧ソ連兵が上陸してきた時の事など語り継がれるなど、県内の北方領土返還要求運動の中心として精力的に活動されておられます。

地域社会賞

魚津市社会福祉協議会　魚津あったか食堂

「魚津あったか食堂」は、子供からお年寄りまで、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくり、みんなで食事をとることの楽しさを伝える目的で、2018年夏より準備・会議を重ね、2019年３月にスタートしました。(事務局：魚津市社会福祉協議会)

目的に賛同する有志が、ボランティアスタッフとして、また食材の提供という形で協力していただいています。

共同募金の助成を受け、令和元年度は、月に１回旧福祉センター百楽荘で食堂形式による実施、令和２年度はコロナ対策として(事前予約にて)、月に１回土曜日の児童センターの子供たちと生活に困っている方への配食形式で実施しています。

代表の中才美喜子さん（魚津市民生委員児童委員協議会会長）は、「参加者から嬉しい声が聞かれ、この取り組みが魚津市各地に広がり、息の長い活動にしていきたい」と話しています。

地域社会賞

一般社団法人　アトリエきらり

一般社団法人「アトリエきらり」は、2019年３月設立。現在スタッフは20人です。代表の鈴木久美子さん（入善町横山 48歳）は、臨床美術士で、福祉施設での勤務経験があります。

「アトリエきらり」では、障がいのある子供や、その家族が集まれる場として、入善町青木にある「結ベース」で「おやこ食堂」を開催しています。また、障がい児を対象にした魚津・黒部・入善の３市町の施設に、地元飲食店が作ったお弁当を贈っています。

昨年６月には、新型コロナウィルスの影響で負担を強いられた家庭を支援しようと、魚津のショッピングセンター　サンプラザ魚津で、子供たちに無料でお弁当を80食を配りました。コロナ禍で売り上げが減っている地元飲食店の支援も兼ねました。（大人は１個300円、１家族３個まで：ＮＰＯ法人「全国こども食堂支援センター・むすびえ」の緊急支援プロジェクトの助成）

昨年８月から11月までは、「結ベース」で、対象を子育て中の家庭から、外国籍の方、高齢者世帯に広げて、テイクアウト版の地域食堂を開催しました。（「赤い羽根共同募金」および「とやまっ子エールごはん緊急支援事業費補助金」を活用」）

その他、昨年８月から今年３月まで、恒常的困窮状態にある家庭や、シングル家庭にお弁当や食料品の宅配を行う予定です。

他にも、「アトリエきらり」では、アートを通して高齢者の認知予防活動を行っています。魚津神経サナトリウムでは、クッションや、藤の花を使った飾りなどを入所者と作りました。また、聞こえが不自由な方向けのバッチなどを作って、魚津市役所と入善町役場の福祉課に寄付しました。

福祉のために前向きに取り組む「アトリエきらり」のさらなる活動を期待しています。

地域社会賞

ひすい恵みの会

古代から宝石の一種として貴ばれたヒスイの原石が拾える「ヒスイ海岸」。日本の海岸で、ヒスイの原石が拾えるごく限られたこの海岸の魅力に魅了された仲間で、平成24年４月、「ひすい恵みの会」を設立。現在12名で活動しています。

「ひすい恵みの会」はヒスイ海岸観光交流拠点施設「ヒスイテラス」の管理運営に加えて、年末年始を除いた毎日、ヒスイ海岸で拾える石っころの説明等ヒスイ海岸の魅力を伝えたり、朝日町の観光ガイドを行っています。又、ヒスイテラスで行われるイベントには、全面的に協力し盛り上げています。

その他、近年では県内外の小・中学校から依頼が増え、ヒスイ海岸の石っころの見分け等ガイドを行っています。

ヒスイテラスの来客は、全国各地から年50,000人、石っころの見分けは年10,000件行っています。（朝日町観光協会公表）

奨 励 賞

新川高校 コミュニティビジネス部

平成28年度より地域の課題とビジネスの仕組みを学ぶことを目的として設立された部活動で、平成30年の中小企業庁の操業への理解と関心を高める取り組みを表彰する「創業機運醸成賞」の全国20団体の一つに選ばれました。

平成28年度は魚津の水と果物を使ったオリジナルコーヒーとデザートを開発、29年度は米粉を使ったつけ麺「魚津の米騒動つけめんかあちゃん怒りの味」を製麺会社やＪＡうおづと協力して開発しました。令和元年度は地元のリンゴ農家と協力して強風により傷がついたり形の悪い「加積りんご」を使いリンゴバターを開発、地元のショッピングセンターで販売して売上金を魚津市に寄付しました。

今年度は、コロナ過で学校の活動時間も限られ、商品開発はできませんでしたが、地元の観光を見直すために、スポーツレクリエーション（ロゲニング魚津）を企画し、多くの方が参加されるなど、今後の活動が楽しみな部活動です。

青少年育成賞

大久保　和　雄 さん

大久保さんは、1951年大分県大分市に生まれ小学２年のころから剣道をはじめ1974年ＹＫＫ入社、剣道部に所属し黒部市剣道協会会員となりました。

1981年から黒部少年剣道教室を開講し現在まで40年間、青少年の剣道指導を行われています。1991年からは鷹施中学校の剣道部の指導にあたり、現在は日曜日の朝、火曜日木曜日の夜、土曜日の夕方は黒部市少年剣道教室、平日の放課後は鷹施中学校での剣道の指導を行っておられます。

自分自身も、剣道７段で数々の大会で優秀な成績を納められ、2016年には公益財団法人日本体育協会スポーツ少年団指導者表彰を受賞され、昨年行われた「ねんりんピック富山」では剣道交流大会富山県Ｂチームとして出場され第２位の成績を収められております。

29歳から40年間、ボランティアでほぼ毎日少年たちの剣道の指導を行ってこられたことに敬意を表します。

新人賞

鍛治茉音（まのん）さん

令和２年１月（当時魚津東部中学校３年生）にスイスのローザンヌで行われた第３回冬季ユース五輪競技大会で世界を相手に積極的な滑りを見せて、女子ハーフパイプの部で銀メダルを獲得されました。

両親の影響で、４歳のころからスノーボードを始め、小学５年生から本格的に競技を始めたそうです。ユース五輪の銀メダルは、自信がついた反面やっぱり悔しさが勝りますと話しておられます。

冬季五輪出場は一つの目標ではあるがゴールではない、国内外での遠征や大会で技を磨き、世の中に自分の滑りを発信するために大きな舞台で勝てるような選手になりたいと、今後の目標をしっかりと持っておられます。